

## まえがき

彦根市長 和田 裕 行

彦根市および彦根市教育委員会では、子どもたちが文化芸術活動を通して自己表現できる機会を提供するとともに、豊かな心と感性を育て、将来の文化芸術活動の後継者を育てることを目的とする『ひこね子ども文化芸術奨励事業』を、平成二十二年度から実施しております。

今年度もこの事業の一環として、子どもたちの豊かな表現力(考える力・書く力・伝える力)を育むため、「ひこね子ども文芸作品」を募集し、俳句、川柳、短歌、詩の4部門に、延べ四、二三〇人の子どもたちから、六、八七〇点もの作品が寄せられました。たくさんの方にご応募いただき、本当にありがとうございます。

今年度の作品募集にあたっては、彦根市立小・中学校に在籍しているみなさんには、新たな試みとして学習者用端末から応募していただけるよう取り組みました。普段の授業で使用しているタブレット端末から応募できることで、俳句や川柳、短歌や詩をより身近に感じ、創作に取り組んでいただければと思います。

創作となると気負ってしまいがちですが、心に浮かんだこと、感じたことを文字表現することだと思えばそんなに難しいことはありません。はじめは心に思いつくがままを、書いてみて、次に人に伝わる「表現」を意識してみてください。

相手に伝わる表現を磨くためには、自分の中の「言葉」の蓄積量が重要になってくると思います。みなさんは若く、たくさん「言葉」を自分の中に貯め、消化するキャパシティがたくさんあります。たくさん貯め、使い、時には失敗もしたりして、自分の表現の幅を広げてみてください。

最後になりましたが、彦根文芸協会の皆様には、作品の審査をはじめ、「夏休み文芸ワークショップ」の各部門の講師等、将来の彦根の文芸シーンを担っていただく人材育成のために、多大なるご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。今年度は久しぶりに対面での講座開催となりましたが、子どもたちのみずみずしい感性や学ぶ意欲に触れこの事業を継続したいとの思いを強くいたしました。

これからも、明日の彦根を担う子どもたちの健やかな成長を、温かな目で見守っていただきますよう、関係各位の皆様にお願い申し上げます、発刊に寄せる言葉とさせていただきます。

令和五年 三月